

一口法話

耳に聞いじめるよりも
でも仏の教えである。

何よりも健康は第一の富である



お参りください

参道に灯籠を設置

大勢のご奇特な皆さんによって、参道に十基の灯籠が奉納され、本堂と聖天堂とのつながりができて荘厳な感じがいたします。お盆や除夜の鐘のときには、ロウソクを灯す予定です。神秘がますますではないでしょうか？



整備前



整備後

楠の根元が整備されました。露出した根張りの保護のためです。きれいになったので花壇を作りました。



ゆが
愉快です

寿楽院に寺族が増えました。

副住職の伴侶として、共に寺を守っていききたいと思えます。

生き甲斐・・・

人間がそれぞれに自己の能力を発見し、これを磨き、自己を確立し、これに見合う天職を見つけ、これに就き、これによって生き自己には満足をし、社会には貢献をもちたらし、自ら生きることに感得をすることである。

空海の言葉 シリーズ

のうしよ

こうひつ

能書は必ず好筆を用う

弘法は筆を選ばず

「弘法は筆を選ばず」などということは、誰が言い出したことか知りませんが、この文章を読む限り、大うそです。

平安時代、弘法さんは嵯峨天皇や橘逸勢と共に、「能書三筆」といわれました。とくに弘法さんは唐に留学中、皇帝から「五筆和尚」という尊称を賜ったほどの能書家でした。五筆というのは、楷書、行書、草書、篆書、隸書の五つの書体のことです。きっと五つの書体を、いずれも優れた筆跡で書かれたということでしょう。

日本に初めて筆と墨の製法を伝えたのも、弘法さんです。それまでは筆も墨も製品になったものを輸入していました。

弘法さんは、ほかに「お菓子のつくり方」とか、「石油のつかい方」、「土木工事の技術」などまで身につけて帰国されたのです。その成果は、九州に日本最初のお菓子屋さん「現われたり、香川県に「満濃池」という巨大ダムが完成することになるのです。

さて弘法さんは、淳和天皇が皇太子のとき、狸の毛で楷書用、草書用などの書体に合わせてつくらせた、「国産品第一号」の筆を献上しました。弘法さんは天皇に、「陛下がよい書をお書きになろうとお思いになられましたら、どうかその書体に合わせた筆をおもちください」と、申し上げたのです。

「空海のことばより」

